

東京区部と多摩地区の緑地の現状はどうなっているか

田中充（法政大学）・三浦一浩（地域生活研究所）

はじめに

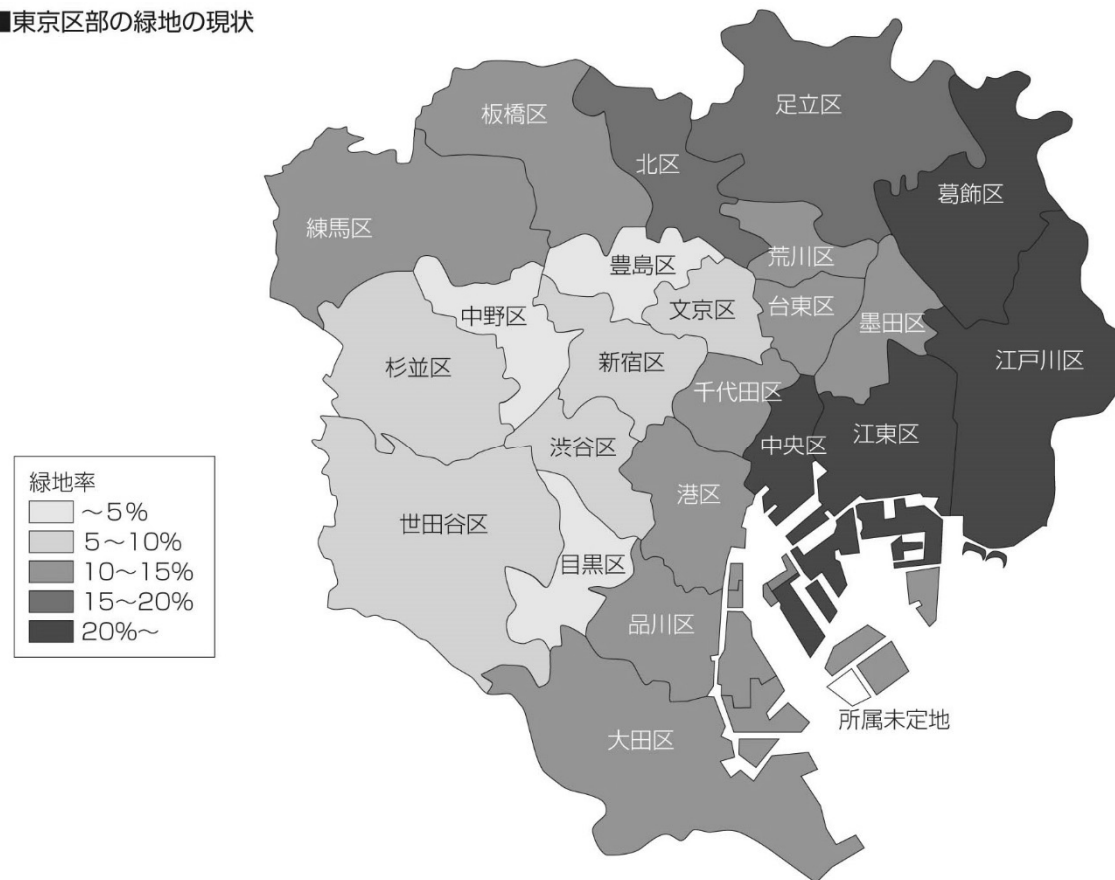
身の回りの樹林地や農地等は、生活に潤いや快適さをもたらし、地域における水循環の確保やヒートアイランド防止といった気候の緩和を担うなど、都市にとって大変重要な要素である。こうした緑地の状況は、区部と多摩地区では大きく異なり、この間の都市開発等の進展に伴い、緑地状況は大きく変容している実態がある。

「緑地」は、人によって様々な概念で使われ、その意味するところは大きく異なることがある。そこで本稿における緑地の定義を確認しておこう。

ここでは、東京都統計資料の「地域別土地利用面積」に基づき公園や緑地・樹林地、農用地、水面・河川・水路、森林、原野を合わせた空間を「緑地」と規定する。そしてこれら各項目の面積の総和を「緑地面積」と定義している。この統計データのもとである「土地利用現況調査」は、東京都における都市計画策定の基礎資料を得ることを目的に1970（昭和35）年より概ね5年ごとに実施されている調査である。

これらのデータを用いて、23区及び多摩地区の市町村ごとの緑地面積の分布状況を俯瞰してみよう。区部では最新の緑地データとして2011年データを用い、多摩地区では2012年データを利用している。

図1 ■東京区部の緑地の現状



東京区部の緑地

直近の2011年において、23区のなかで緑地率（区の総面積に対して緑地面積の割合）がもっとも高いのは江東区23.1%であり、続いて江戸川区22.9%、中央区21.8%、葛飾区20.6%の順である（図1参照）。この4区は、高度に都市開発が進み、活発な社会経済活動が営まれているものの、緑地率20%を超える緑の多い地域とすることができる。いずれも、区内では河川や水域に恵まれ、川沿いの緑地が広い範囲に広がっているという地域特性がある。

一方、緑地率が低いのは豊島区3.8%、中野区4.0%、目黒区4.0%である。続いて渋谷区6.4%、杉並区7.0%、新宿区7.1%、文京区7.6%となっている。これらの区は、東京23区の比較的中心部に位置する立地であり、区域内では高度な土地利用が行われている。また区域面積は小さく、まとまった大規模な緑地を持たないという特性を持つ自治体である。

多摩地区の緑地

多摩では、最新の2012年データをみると、山村部の檜原村と奥多摩町は緑地率が際立って高く、両者とも緑地率97%を超えている。さらに多摩地区西部の日の出町79.7%、あきる野市78.4%、青梅市76.2%、八王子市60.2%が緑地率の高い自治体である（次頁図2参照）。これらは、区域内に広大な森林や里山が広がり、面積の相当部分を森林が占めるという地域特性を有している。

このほかに、緑地率が高く緑地が多い地域として、稲城市40.1%（緑地率）、瑞穂町39.0%、東大和市38.5%と続き、町田市や日野市、多摩市、清瀬市、武蔵村山市の各市でも緑地率は30%を超えている。これらは、都心部に対して郊外型の住宅都市として発展する一方、区域内にまとまった緑地や樹林地等が残り、緑の多い都市環境を形成している。

一方、緑地率が低いのは武蔵野市10.2%、福生市12.4%、国立市13.9%があり、これらは23区の緑地率の高い区に比べても下回っている。また、三鷹市16.4%、西東京市16.5%、羽村市17.5%、小金井市17.7%等も緑地率は10%台である。緑地率が低いこれらの市は、いずれも市域面積が1,000ヘクタール前後と小規模な自治体であり、おおよその傾向として区部近隣の居住地域として開発が進み、残された樹林地や農地が減少してきたという特徴がある。

東京の緑地の現状分析

改めて東京の緑地の状況として区部と多摩地区の現状を振り返ると、全体的にまとまった自治体面積を有し、広い範囲に森林や山地を抱える多摩地区で緑地率が高く、都心部等で高度に都市開発が進められてきた区部では緑地率が低いという傾向にある。

区部の緑地の分布状況をみると、東部に位置して区域内に海域や河川を有する区では緑地率20%を超えるなど比較的緑が豊かである。反面、面積が大きな周辺区では緑地率はさほど高くない傾向があり、また区部のほぼ中心に位置する比較的小規模な区では緑地率が5%に達しないなど、極端に緑地率が低く、区の特長や立地条件によって緑地の現況が大きく異なっている。

また、多摩地区では、山林原野が広がる西部方面で緑地率が際立って高い自治体があり、その近隣周辺の自治体でも緑地率60%を超えている。これらの自治体では、区域の大半を森林、農地、里山等が占めており自然豊かな地域特性を示している。一方で、多摩地区でも緑地率10%台前半の市が点在しており、これらは市内では住宅開発が進み、全般に小規模な市域面積という特徴を有している。

東京の緑は、区部と多摩地区では状況が大きく異なり、また23区の内部、多摩の内部においても、自治体を持つ条件や特性に応じて緑地の現況が異なっている点に留意が必要である。

図2 ■多摩地区の緑地の現状

